

少年硬式野球四国選手権大会規定

1. チームの登録選手は9名以上 **18名以内**とする。(入学前の新1年生も出場可)
2. 出場選手は各リーグの登録選手とする。
3. 試合前の審査は行わないが、審判の判断で道具や服装等の注意はある。場合によっては使用中止や出場停止もある。
4. 登録選手及び登録された監督・コーチ2名・スコアラーのみベンチに入ることが出来るもので、代表はベンチに入ることは出来ない。試合当日の選手・監督・コーチの登録変更は可能であるが、1時間前までに球場責任者宛変更届を提出承認を受けなければならない。
5. 組合せ若番号が1塁側ベンチ・後番号が3塁側ベンチに入る。
6. 監督・コーチは、選手と同じユニフォームを着用すること。
7. 試合開始時間60分前に試合場に到着し所定の受付を完了させること。
8. 各チームの主将は、試合開始40分前又は前試合4回終了後(コールドゲームのときは試合終了次第)メンバー表を球場本部に提出し同時に審判立会いのもと攻守の順を決めること、この際、**所定の投球回数申告用紙(投手ごとに前試合の投球回数を記載)**に基づき審判と一緒にお互いが相手チーム投手の投球可能回数を確認すること。
9. いかなる理由であれ試合開始時間までにチームが球場に到着なき時は、主審は没収試合を宣告することが出来る。
10. 7回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長10回あるいは試合開始から2時間を越えては(どちらか早いほう)新しいイニングに入らず、以下の方法でタイガーレーク方式1イニングを実施する。
尚、決着のつかない場合は最終回のメンバー全員の抽選で決定する。(抽選方法は主催者で決める)
(日没・球場の都合により変更する時もある。その場合は大会責任者及び主審の決定に従う。)
***タイガーレーク実施細則**
①死走者満塁の状態から行うものとする。
②打者は前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。
③この場合の走者は前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして、二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。
④この場合の代打及び代走は認められる。
11. ①4回10点差、5回又はそれ以上の回を終わって7点差の時は、コールドゲームとする。但し、決勝戦は適用しない。
②試合の成立は4回終了を原則とする。(時間制限は4回終了に準ずる)
③5回以降、降雨・日没等により後攻が出来ない場合は、最終均等回の得点を以って成立とする。
12. 雨天等により4回未満で試合中止の時はノーゲームとする。
13. 投手の連投を認めるが1日7イニングまでとし、連続する2日間で10イニング以内とする。(イニングの途中降板は、分割計算無しで全て切り上げ1イニングとして計算する)。
同日複数試合に登板した投手及び連続する2日間で合計5イニングを超えた(5イニングは可)投手は当該試合制限回数から翌日の試合まで投手又は捕手として試合に出場することはできない。
投球回数記録表は毎試合試合終了後、責任審判員を経由して球場責任者まで提出のこと。
尚、その他投手及び捕手の投球制限については、全国少年硬式野球協議会並びにジャイアンツカップの投球制限規定に準ずる。
14. 「故意四球の申告制」に関する規定の追加→監督からのシグナルを得て審判員より一塁を与えられた打者を含む、ボール4個を得て一塁への安全進塁権を得た打者は、一塁へ進んで且つ、これに触れなければならない義務を負う。(申告敬遠)この場合、この投手が1球も投げる事が無くてもこの投手の投球にシグナルにカウトされる。
15. 監督又はコーチが選手にアドバイスをするときはマウンドに入ても良い、ただし、駆け足のこと。
16. 監督又はコーチが投手に対して指示を与える目的をもってタイムを要求する場合、直接、間接を問わず1イニング2回迄とし2回目は自動的に投手交代となる。この場合は、投手が他の守備位置につくことは出来るが、同一イニングで再び投手として登板することが出来ない。但し、新しいイニングに入れば登板することが出来る。
17. 監督・コーチの指示伝達は、1試合で守備、攻撃のタ交代を各2回までとする。延長戦・タイガーレークに入った場合は1イニングに1回とする。
注、1) 野手(捕手を含む)が2名以上マウンドに行った場合は、1回の計測をする。
注、2) 捕手は、投手のもとへ行くのは1試合3回までとして、投手交代・延長戦・タイガーレークは各1回とする。
18. ヘルメットは1チーム7個以上同色で完全なものを備えること。
(但しボールボーイ用として別に2個完全なものを用意すること。)
19. 金属スパイクの使用を認めるが人工芝球場での使用は特に注意すること。
20. 外国選手及び女性選手の出場を認める、人数は制限しない。

21. 捕手は試合及び練習を問わず必ずユニフォームの下に規定の防具を着用する。
22. 選手は全員傷害保険に加入していなければならぬ。尚、傷害処置については大会中の負傷又は疾病に対して応急処は施すがそれ以上主催者は責を負わない。
23. 監督・コーチ・選手はユニフォームの左袖に各連盟指定マークを付けなければならない。
24. 試合前のシートノックは原則として両チーム5分間、後攻より行うが進行時間等により中止することもある。尚、守備位置につかずシートノックの補助をする選手はヘルメットを着用すること。
25. 当日選手のやむを得ない事情による欠席は認めるが出場選手が9名を割った場合は出場を禁止する。
26. 背番号は必ず登録された番号に限る。変更は認めない。
27. スコアラーは選手と同じ帽子を着用すること。
28. チーム旗およびプラカードを必ず持参すること。(開会式で使用)
29. 退場命令の行使について
審判に対して、限度を超える侮辱又は暴力みなす行為が見られた場合、審判は、即刻退場を求めることが出来る
また、ベンチ外(応援団席、観客)から同様の侮辱、暴言があった場合も球場責任者は審判団と協議の上、退席を求め
ることが出来る。
30. 投手板に触れている投手が、一塁又は三塁に送球をするまねだけて、実際に送球しなかった場合はボーグである。
投手は、塁に送球する前に塁の方向へ直接踏み出さなければならず、踏み出したら送球しなければならない。(二塁につ
いては例外)
走者一・三塁のとき投手が走者を三塁に戻す為に三塁へ踏み出したが実際に送球しなかつたらボーグとなる。
「注」投手が投手板に触れているとき、走者のいる二塁へはその塁の方向にステップすれば偽投しても良いが一塁又は三塁と
打者への偽投は許されない。
31. その他のルールについては、「公認野球規則」に準じる。
32. 3塁コーチに限り監督又はコーチでも可。但し、コーチボックスから外へ出たりする等過度な行為は慎むこと。

「大会特別規定・補足」

1. グラウンドインから試合終了まで、監督、コーチ、スコアラー、登録選手以外はベンチに入ることが出来ない。
2. グラウンドインしたチームは競技委員の指示のもと、速やかに試合前の練習を行うこと、グラウンドルールがある場合はそれに従うこと。
3. 試合をペースメーカーに行う為以下の項目を守ること。
 - ① 攻守交替時に守備に移るチームが速やかにポジションにつくことはもちろんのこと、攻撃に移るチームも第一打者とベースコーチはミーティング(円陣)に加わらず所定の位置に速やかにつくこと。
 - ② 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球し、これを受けた投手は、ただちに投手板を踏んで、投球位置につき捕手からのサインをうけること。
 - ③ 打者は、みだりにバックボックスを出ることは許されない。たとえ、タヒを要求しても審判員がタヒを宣告しないときはイグレーブとする。
 - ④ 次打者は、必ず初回バッターアークルに入り、膝をついて待機すること。但し、危険防止を踏まえた上で片膝をついてスイングすることは認められる。
 - ⑤ 捕手は、投手に返球したり野手に声を掛けるために一球ごとにホームプレートの前に出ないこと。
 - ⑥ コーチボックスには、監督、コーチ、選手のいずれかが入る。必ずヘルメットを着用すること。(選手は両耳ヘルメットを着用)
 - ⑦ 監督、コーチ、選手、スコアラー等いずれも相手選手を惑わすような言動をとってはならない。
 - ⑧ 手袋、リストバンド、カボーガード、フィットガードの使用を認める。打者が走者になった場合、これらの脱着のためだけのタヒは認められない。但し、打者走者が二塁ベースに到着した際に限りこれらの脱着のためのタヒを認める。(速やかにベースコーチが取りに行くこと)
 - ⑨ サングラスは、日よけ防止のために審判が必要と認めたときは外野手のみ身に付けることが出来る。また、首輪(リング)は指導者選手ともエホームの外から見えないように身に付けるものとし、露見するものは禁止する。
 - ⑩ 試合中、次の試合のチームのブルペンでの投球練習は4回終了後とする。
 - ⑪ 試合中、投手のブルペンでの投球練習以外でベンチ前でのキャッチボール並びにバットの素振りは認められない。
 - ⑫ グラウンド内でのブルペンでの投球練習を行うときは安全対策上、ヘルメット着用の打球監視員を必ず一名置くこと。試合中の投球および送球練習は一組とする。
 - ⑬ バットボーイ、ボールボーイ、シートノック補助員は両耳ヘルメットを着用すること。

以上